

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 赤松 明彦 文学研究科 准教授 VASUDEVA, Somdev 人文科学研究所 教授 藤井 正人 文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目	インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）										
[授業の概要・目的]											
インド学・サンスクリット学の分野における論文作成の技術を基礎から学び、みずからテーマを選んで資料を集め、分析し、その成果を発表する。さらに討論の場で議論し、批判を受けるという訓練を重ねることで、本格的な論文を作成するためのノウハウを身につける。											
[到達目標]											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
[授業計画と内容]											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
[履修要件]											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 特になし。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											